

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No : 22-005)

1 パラオのステイーブン・ビクター農業・漁業・環境大臣は、リスボンで開かれる今年の国連海洋会議 (the UN Ocean Conference) に関し、「100%の海洋管理は、推進する必要がある重要な議題だと思う」と述べた。同大臣は、パラオが既に海域のほぼ 100%を管理していることを認めながらも、「気候変動の影響と海洋の健康の改善に取り組むためのカギは、保護の生産のバランスを示すことである」と述べた。

一方、パラオ国内では、政府のブルーエコノミープランに反対する市民団体、伝統的な酋長、漁師、若者らで作る反対派は、パラオの EEZ はすでに 100%管理されており、現在のパラオ国立海洋保護区 (PNMS) 法は、海洋保護区 (MPA) として必要な科学的な気候変動への貢献はもちろんのこと、BUL (※保護の意)、PNA (ナウル協定締約国)、エコ・ツーリズムによって利益を得る目的も満たしていると述べている。ウィップス大統領のブルーエコノミープランによって作られた政府の 100%管理コンセプトに対し、請願を通じて対抗する動きが高まっている。

[原文](#)

(19th April 2022, Island Times)

2 パラオの国営放送局が AM ラジオサービスを復旧した。旧 AM タワーは 2012 年の台風で破壊されていた。このプロジェクトは、国連開発計画 (UNDP) を通じて日本から資金提供を受けたもの。

[原文](#)

(19th April 2022, Radio NZ)

3 ミクロネシア連邦 (FSM) のディビッド・パニューエロ大統領は、コンパクト交渉担当米大統領特使のジョセフ・ユン氏と米国国家安全保障補佐官のジェイク・サリバンとの会談を終えた。パニューエロ大統領は、コンパクトレビューと計画に関する合同委員会 (Joint Committee on Compact Review & Planning) で経済支援パッケージの提出を FSM 代表が要求することを二人に通知した。また、同大統領は「米国が今後 20 年間の意味のある支援パッケージを提供してくれるかについて、FSM 市民は重大で、深刻で、非常に現実的な懸念を抱いている」と述べた。

[原文](#)

(22nd April 2022, Island Times)

4 中国外務省報道官は4月19日、中国がソロモン諸島との安全保障協定に署名したと述べた。ソロモン諸島議会では同日、財務委員長 (chairman of the public accounts committee) であるダグラス・エテ議員が、中国の発表に言及しつつ、中国外務省の当局者が5月中旬にソロモン諸島を訪れ、多面的協定を締結すると述べた。同氏は、この訪問は、両国が貿易、教育、水産業の協力を強化するためのものと述べて、軍事基地を設置するために安全保障協定に署名するという考えを否定した。ソガバレ首相も議会に対し、提案された安全保障協定に中国の軍事基地は含まれないと述べた。

ソロモン諸島の野党党首は「署名まで全てが秘密裏に行われ、当然すべき協議が無く、漏洩するまで隠されていたものが、我々にとって最善の利益になるのか」と述べ、安全保障協定が秘密裏に署名され、中国当局を通じて知ることになり、残念だと述べた。同氏はまた、ソロモン諸島は外部からの脅威はなく、新たな安全保障協定を必要としていないと繰り返し、地政学的競争が激化する環境における安全保障の問題は、自国だけの問題ではなく、太平洋島嶼国の隣人やパートナー、そしてインド太平洋地域に密接に関係すると述べた。

[原文](#)

(19th April 2022, CNA)

[原文](#)

(21st April 2022, Solomon Star)

5 (※マレーシアの) マラッカ港湾当局は、同港内に、マラッカ海峡を通過する船舶を主な対象としたバンカリングのための停泊エリアを指定した。このような区域の指定はマレーシアで初めて。広さは約 15 km²で、20 を超える非常に大きな原油運搬船が同時に収容できる。バンカリングサービスの責任者は、船員交代、オフショアサポート、ロジスティクスサービスを含むすべての追加サービスを 1 か所で実行できると述べた。マレーシア運輸大臣は、重要な国際海上貿易ハブとしてのマラッカの栄光の日々を取り戻すためのマラッカ港湾局の取組みを賞賛し、この地域にとって望ましいバンカー港の 1 つに成長し、マレーシアがバンカー業界及び海事産業全体を発展させる後押しになるとの自信を示した。

[原文](#)

(19th April 2022, Manifold Times)

6 コンテナ船とばら積み船がアジア最大の給油ハブであるシンガポールをスキップしている。中国その他の港での遅延により、時間を節約するために停泊のスケジュールを変更しているためだ。シンガポール海事港湾庁が発表した暫定データによると、3月に燃料補給のため帰港した船舶は3,020隻であり、1年前より441隻少なくなった。新型コロナウイルス発生による上海の封鎖は世界最大のコンテナ港を行き詰らせ、船の列ができています。貿易業者らによると、数百隻のばら積み船が中国東部沖で待機しており、時間節約のためにシンガポールではなく広州または舟山で燃料補給しているようだと述べている。

[原文](#)

(19th April 2022, Business Times)